



第 2570 回例会報告

日 時：令和 5 年 11 月 29 日（水）

会 場：例会場

司 会：S A A

喜連元昭委員

開会点鐘

小澤崇文会長

ロータリーソング：奉仕の理想

お客様の紹介

小澤崇文会長

杉山英昭様 元国学院大学文学部大学院教授

会長報告

小澤崇文会長

●第 2750 地区 宮崎ガバナーより

「東京クロスシティロータリークラブの武藤英正
会員」が国際ロータリー第 2750 地区 2026-27 年度
ガバナーに就任するガバナーノミニ・デジグネ
ートとして確定したことを宣言いたします。

幹事報告

北島清高幹事

●地区大会の出欠確認を行います。2 月 27 日(火)
グランドプリンスホテル新高輪にて午後 13 時 15
分開会です。2/28 例会の振替になります。

委員長報告

●寺澤指名委員長 第 2 回指名委員会を例会後に
行います。委員の方は出席をお願いします。

ニコニコ BOX

大谷親睦活動委員

●小澤崇文会長 暖冬とはいいながら、冷え込む様
になってきました。御自愛下さい。卓話講師の杉
山英昭様、拝聴致します。宜しく御願ひ致します。

●北島清高幹事 いよいよ 12 月を残すのみで 2023
年も終了です。なんとなくせわしなくなりました!!

本日の卓話杉山英昭様よろしくお願い致します。

●寺澤会員 杉山先生、本日はお忙しい中、講師
を引き受けてありがとうございました。しっかりと
勉強させて頂きます。

●津戸会員 本日は杉山先生の卓話楽しみにして
おります。

●大谷会員 卓話講師の杉山英昭様、私の大学の
大先輩であります。本日はしっかりと学ばせて頂
きます。どうぞよろしくお願い致します。

* ニコニコ BOX 合計 21,000 円 累計 828,000 円

出席報告

二階堂出席奨励委員

11 月 29 日 在籍 44 名中 出席 31 名

28 日前の出席率 10/25=97.72%・11/1=90.91%

閉会点鐘

小澤崇文会長

2023-24 年度 国際ロータリー第 2750 地区

地区大会

2024 2.26 月

- 第 3481 地区(台湾)歓迎昼食会
- 各種委員会
- クラブ会長・幹事会
- RI 会長代理ご夫妻歓迎晩餐会

2024 2.27 火

- PBG ブランチミーティング
- 第 3650 地区(韓国)歓迎昼食会
- 本会議 (13:15)
- 懇親会



RI 第 2750 地区 多摩中グループ
東京国立ロータリークラブ

会長：小澤崇文 幹事：北島清高

例 会 日：毎週水曜日

例 会 場：東京都国立市谷保 5209 谷保天満宮社務所 2 階

事 務 所：東京都国立市谷保 5234-1 電話 042-575-0770 FAX 042-572-8666

E-mail : kunitachi-rc@sage.ocn.ne.jp WEB http://kunitachi-rc.com/

会報委員：山岡眞茂・川向輝樹・本多鋼治・中村 明

「どうする光源氏」

元国学院大学文学部大学院教授
杉山英昭氏



講師紹介 寺澤プログラム副委員長

杉山先生は、現在は目黒区にある日本近代文学館において、源氏物語全公開講師をつとめていらっしゃいます。またNHK学園市川オープンスクールでは親しみ深い万葉集歌を取り上げて読む、「今、万葉集を味わう」講座の講師を務めています。源氏物語は世界の三代古典と言われており、世界中の人々に読まれておりますので、本日は僅かな時間ではありますが勉強してまいりましょう。

文学はなぜ破滅的な場面を描くのか

源氏 37 歳の冬から 38 歳の冬までが、「玉鬘 10 帖」の最終巻「真木柱巻」である。久しい間、源氏の養女となっていた玉鬘が、本当は内大臣の娘であったことが人々に知られるようになる。その玉鬘に対する求婚譚が、鬚黒大将という意外な人物の手に玉鬘が落ちたことによって終末を迎える。この結婚がなぜ「意外な」と登場人物や読者に感じられたのであろうか、鬚黒の呼び名のように、鬚もじゃの容貌や性格もあり、家柄はよいのに玉鬘自身からも無視されていたようなところのある人物であった。玉鬘の求婚者として誰にも軽く見られていた鬚黒大将が、玉鬘を手に入れたことについては、他の人々と同様に光源氏も驚いた。驚いただけでなしに、この結婚を危惧する思いがあった。それは鬚黒には子を 3 人までなした北の方がすでに存在していることであった。

鬚黒大将の北の方は、式部卿の宮の娘で、美しい人であったが、長年物の怪(死霊・生霊)のために病みやつれていて。その常人の体ではなくなった北の方を鬚黒はさすがにあわれと思うが、ある雪の夜、玉鬘のもとに出かけようとする鬚黒に、北の方が背後から火取の灰をあびせかけるという事件が起きた。おそれをなした鬚黒は北の方を避けて、家に寄りつかなくなってしまう。文学はなぜこのような壮絶な夫婦生活の、もはや修復できないほど破滅的な場面を描くのであろうか、と考えるわけにはいかない。

大江健三郎と源氏物語

さて、『源氏物語』を「日本文化がもっとも誇りにしている古典」と、まず大江さんは いっている。大江さんは『源氏物語』のいったいどこに「誇り」を感じているのか。

そして大江さんが言っている次に大切なことは、「大和魂」という殺伐とした近現代的な意味ではなしに、言葉の始原の意味として、それを女流作家・紫式部が日本文学としてはじめて用いたという指摘にある。その始原の意味、すなわち日本人固有の「共通感覚」としての「大和魂」は、「狂信の、あるいは不寛容のそれではなく、穏やかな人間的なもの」であったと指摘する。「大和魂」という古典文学の言葉が包摂する始原の意味を回帰させ、古典文学としての『源氏物語』に高い価値を認め、その世界に人間的な深い理解が及んでいる、大江さんの思想をうかがい知ることができる。

ノーベル文学賞を受け、今日まで戦後の民主主義を標榜しながら、作品と独自の批評活動を展開して来た大江氏の『源氏物語』に対する読みを知することは深い喜びであり、その洞察に敬意をいだかないではいられない。平安時代の始原のことが、近代・現代に対して、いかに批評的な存在であるかを解く、その深い洞察に、わたくしのような『源氏物語』の愛好家としても深く賛同しないではいられない。個人的には、激動の社会を生きることを含めて、先達であった大江さんの生涯は、昭和・平成・令和と、ほとんど私の人生と重なっている。そのご逝去に深い寂[^]を感じつつ、ご冥福をお祈りしたい。 当日の資料より一部抜粋

大江健三郎と名前は誰もが知っていても、小説家、代表作はといわれるとわたし世代はあまり答えられないのではないのでしょうか？どちらかというとか評論家としてテレビなどで見る機会が多かったのからです。

卓話の源氏物語も紫式部が書いたもので、光源氏の物語ということは知っていても、受験勉強と関係なく読む機会もありませんでした。

源氏物語と大江健三郎 どちらも良く名前は知っているのに、細かい内容は知らないカテゴリーに興味を持たせていただいた講師の杉山先生には大変感謝しております。早速週末書店に行きました。杉山先生ありがとうございました。(文責：山岡)